

授業科目の概要

【共通科目】

共通科目では、看護学研究法特論、疫学・保健統計学特論、看護教育学特論、生命倫理学特論、データサイエンス特論の5科目10単位を必修科目とし、環境健康特論、看護管理学特論、健康科学特論、病態生理・薬理学特論の4科目8単位のうち3科目6単位以上を選択必修とする。

看護学研究法特論（必修）

看護学研究を進める上で基本的なプロセスを修得する。看護学研究の意義と社会的役割、研究計画から論文作成までのプロセスを学修する。

疫学・保健統計学特論（必修）

学術論文で使われることの多い疫学・保健統計の手法の意味や実際の活用について解説し、学術論文で扱われるデータを正しく読み解くことができるよう教授する。量的研究を正しく読み解くことができるとともに、統計分析ソフトを用いた実践型学習を取り入れ、研究に生かす手法を修得することも学ぶ。

環境健康特論（選択）

人々がおかれている様々な環境が、健康にどのように関連しているのかについて、公衆衛生学的見地から学ぶ。看護だけでなく、他分野からの、健康と環境に関する学際的なアプローチを学ぶことで、広く多面的な視座を持つことが可能になる。この科目を通して、健康と環境との関連を視野に入れた、柔軟で俯瞰的な視点から看護課題に取り組むための研究のあり方について学ぶ。

看護教育学特論（必修）

看護基礎教育の全体構造を理解し、現在の看護学教育の課題と将来の展望について、看護学教育を展開するために必要な知識・技能を習得し、授業設計の方法を学ぶ。自己教育力を養い、看護学教育を通じて社会に貢献できる能力を身につける。

生命倫理学特論（必修）

生命倫理、看護倫理の歴史、看護職の倫理綱領の作成と改訂の経過を学び、看護実践における倫理の意義を理解する。看護現場における様々な価値を概観し、看護専門職としての自己の価値基盤を明らかにし、倫理的感受性を高める。看護の実践、看護学研究、看護学教育において、看護倫理の視点に基づいて考え、決断し実行できると共に、自己の判断や行動の根拠を説明できるようになることを目指す。

看護管理学特論（選択）

看護管理に関する基本的な理論および知識を修得し、看護専門職として保健医療組織における課題を検討し、管理方法について説明できることを目指す。看護管理における組織的課題を概念・理論を用いて説明でき、その解決策を看護管理の視点から検討する。

健康科学特論（選択）

多様な健康課題を持ちながら、環境の変化やストレス社会の中で生活する人々の健康保持・増進を目指し、看護実践者として必要な知識を学ぶとともに、対象者の尊厳を守りながら支援する実践方法を理解することを目的とする。

病態生理・薬理学特論（選択）

前半の病態生理と後半の薬理学の2部で構成される。病態生理では、疾病のメカニズムを理解し、それに基づく最新の外科的・内科的治療について理解する。薬理学特論では薬物療法の基礎について学ぶとともに、従来の薬品の作用機序とは違った新しいメカニズムで作用する最新の創薬の知識や個別化医療（テイラーメイド医療）の実際について理解する。学修を通して、最新の医療知識に基づいた看護ケアの提供や医師・薬剤師とのタスクシェアを行うための看護実践能力向上を目指し、それを支えるための基盤を醸成する。

データサイエンス特論（必修）

本科目では、ビッグデータから新たな価値を導くためのアプローチとそのプロセスについて、基礎から学修する。研究への活用としては、ビッグデータから将来の動向を予測する研究や機械学習を用いた医工連携研究の実際について学ぶとともに、実際に機械学習の実践を行う。これらを通して、データサイエンスが、看護における課題解決のためのどのような役立つか、その方策についての洞察を得る。

【専門科目】

専門科目では、選択する分野の特論、演習を履修する。また選択しない分野の特論も選択科目として履修することが可能である。

<臨床看護学分野>

（実践看護学領域）

看護コミュニケーション特論

看護職が身につけるべきコミュニケーション能力は多様な価値観や文化を持つ対象者との関係構築に重要な能力で、看護実践の基盤となる。「多様な価値観や文化を持つ対象者」とは、患者やその家族が持つ文化的背景、生活習慣、価値観、医療や健康に対する考え方、宗

教などが多様であることを意味する。様々な看護場面の中で、患者との相互作用により行われるコミュニケーションの概念や理論を理解する。看護というコンテキストで、コミュニケーションに影響を与える様々な因子を探求する。また、コミュニケーションの課題解決に寄与する教育方略と研究手法を学修する。

看護コミュニケーション演習

本科目では、看護におけるコミュニケーションの研究意義について学修し、研究課題の明確化に取り組む。看護実践におけるコミュニケーションの課題を取り上げ、体験型学修を通して、学修した諸概念や理論を検証する。理論的基盤に根差し、科学的根拠に基づいた看護コミュニケーションの実践を通して、自身の研究テーマの導出に繋げる。前期の看護コミュニケーション特論で学修した多様な価値観や文化を持つ対象者、及び他職種とのコミュニケーションに関する諸概念や理論をもとに、実践における様々な課題について文献を通してディスカッションを行い、解決策を探求する。また、文献のクリティークやディスカッションを通して、自己の研究課題を明確化する。

エンドオブライフケア看護学特論

エンドオブライフケアの歴史的背景や基盤となる概念、患者の QOL や QODD について学ぶとともに、望ましい死を迎えるための支援や、がん患者・非がん患者、高齢者、ICU・救急の場面、在宅におけるケアに関する具体的な支援と家族へのケアについても理解を深める。さらに、エンドオブライフにある患者や家族への意思決定支援のあり方や倫理的課題について説明できることを目指す。

エンドオブライフケア看護学演習

エンドオブライフにある患者と家族を支援するためのニーズについて討議し、挙げられた課題を解決するための研究方法を明確にする。患者及びその家族を含めたエンドオブライフケアに関する文献について、クリティーク及びディスカッションを行い、研究動向や研究方法について学修する。

(次世代育成看護学領域)

次世代育成看護学特論

次世代の社会を担う子どもが健やかに生まれ育成されることを支援するために、母性看護学や小児看護学に関する諸理論や概念、リプロダクティブヘルス・ライツに関する歴史的背景や国際動向について学び、複雑化する社会の中において女性や子どもがおかれている状況や健康課題への理解を深める。

次世代育成看護学演習

次世代の社会を担う子どもが健やかに生まれ育成されることを支援するために、女性や子ども、その家族の多様な課題やニーズを理解し、課題解決するための研究方法を明確にする。次世代育成に関連する国内外の文献やガイドラインの検索を行い、クリティークやディスカッションを通して、自己の研究課題を探究できることを目指す。

<広域看護学分野>

(パブリックヘルス看護学領域)

パブリックヘルス看護学特論

パブリックヘルス看護学を基盤として、公衆衛生看護とグローバルヘルス看護の基本理念について学ぶ。健康課題は、個人、家族、集団、コミュニティだけでなく、国境を超えてグローバルに取り組む必要がある。社会的要因が人々の健康を左右することが知られており、健康格差の是正に看護がどのように寄与できるのかについて考える。多様な価値観や文化を持つ対象者への看護実践とその論文講読を通して、人々の健康とはなにか、健康課題の解決のための研究のあり方について学修する。

パブリックヘルス看護学演習

健康問題や健康格差をはじめとする健康の社会的決定要因などの課題といったパブリックヘルス看護学特論での学びや、教員の研究テーマを通じて、自らの研究テーマと合わせた論文を探索する。論文クリティークを行い、研究の妥当性や研究結果の活用を議論することで、健康課題の解決に寄与する学術論文のありようや、リサーチクエスションの立て方について検討する。

グローバルヘルス看護学展開演習（海外渡航）

海外のフィールドにおいて、文化的背景を理解し、その国の健康課題を見出し、その特徴に合わせたケアを考える科目である。海外フィールドは、オーストラリア、アメリカ、アジア各国とし、指導教員と相談して決定される。渡航先では保健医療従事者との面談や、保健医療施設の見学を行う。その国の保健医療システムや主要な健康課題をその国の政府発行資料などで調べる。対象国の医療専門職に英語で説明できるスキルや、その国の異文化を尊重し対応する適応力が求められる。

(コミュニティヘルス看護学領域)

コミュニティヘルス看護学特論

高齢者、身体障害、知的障害、精神障害などにより何らかのケアや援助を必要とする対象者が、地域社会（コミュニティ）で自分なりの健康や幸せを感じながら暮らすために必要な保健医療福祉に関連する知識及び支援について理解や考察を深めることを目的とする。

コミュニティヘルス看護学演習

研究文献講読や自身の実践経験を通して問題視する、コミュニティヘルス看護学領域における課題について討議し、考察する。また、コミュニティヘルス看護学で活用される研究方法を学修する。

【特別研究】

特別研究は専門科目で選択した分野・領域から研究テーマを選択する。

特別研究 I

各自の研究上の関心に基づいて研究テーマを設定し、先行研究を踏まえて学術研究として成立する研究計画を立案する。これらは特別研究 II の礎となるものである。

特別研究 II

各自の研究上の関心に基づいて研究テーマを設定し、研究計画を立案し、修士論文を執筆し発表する。本科目は特別研究 I を基盤として、発展させたものである。